



CHAPTER 27

即時転送

即時転送 (iDivert) 機能を使用すると、ボイスメール システムへコールを即時に転送できます。コールが転送されると、その回線で新規コールを送受信できるようになります。この章では、即時転送に関する次の情報を提供します。

- 「[即時転送の設定チェックリスト](#)」 (P.27-1)
- 「[即時転送の概要](#)」 (P.27-3)
- 「[即時転送のシステム要件](#)」 (P.27-4)
- 「[Use Legacy Immediate Divert サービス パラメータが \[False\] に設定されている場合の即時転送シナリオ](#)」 (P.27-8)
- 「[即時転送のインストールとアクティブ化](#)」 (P.27-12)
- 「[即時転送の設定](#)」 (P.27-12)
- 「[即時転送用のサービス パラメータの設定](#)」 (P.27-12)
- 「[関連項目](#)」 (P.27-13)

即時転送の設定チェックリスト

即時転送 (iDivert) 機能を使用すると、ボイスメール システムへコールを即時に転送できます。コールが転送されると、その回線で新規コールを送受信できるようになります。

表 27-1 に、即時転送を設定する際のチェックリストを示します。即時転送の詳細については、「[即時転送の概要](#)」 (P.27-3) および「[関連項目](#)」 (P.27-13) を参照してください。

表 27-1 即時転送の設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1 クラスタ全体のサービス パラメータ Call Park Display Timer のデフォルト値が適切でない場合は、それを変更します。	「 即時転送用のサービス パラメータの設定 」 (P.27-12)
ステップ 2 クラスタ全体のサービス パラメータ Use Legacy Immediate Divert のデフォルト値が適切でない場合は、それを変更します。	「 即時転送用のサービス パラメータの設定 」 (P.27-12)
ステップ 3 クラスタ全体のサービス パラメータ Allow QSIG During iDivert のデフォルト値が適切でない場合は、それを変更します。	「 即時転送用のサービス パラメータの設定 」 (P.27-12)

■ 即時転送の設定チェックリスト

表 27-1 即時転送の設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 4 iDivert User Response Timer サービス パラメータのデフォルト値が適切でない場合は、それを変更します。	「即時転送用のサービス パラメータの設定」 (P.27-12)
ステップ 5 [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで、即時転送にアクセスする各ユーザにボイスメール プロファイルを関連付けます。 (注) この手順は、ボイスメール プロファイルとパイロットが設定されていることを想定しています。 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ボイスメール プロファイルの設定値」 および 「ボイスメール パイロットの設定値」 を参照してください。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話番号の設定値」
ステップ 6 Standard User または Standard Feature ソフトキー テンプレートに Immediate Divert (iDivert) ソフトキーを割り当てます。オンフック、接続時、保留、および呼び出し状態でソフトキーを割り当てます。 Cisco Unified IP Phone 8900 および 9900 シリーズには、デフォルトで Divert ソフトキーが割り当てられています。 (注) 管理者は、Cisco Unified IP Phone 6921、6941、および 6961 の iDivert ソフトキーを割り当てます。一方、ユーザは電話機の画面で Divert を参照します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ソフトキー テンプレートの設定」
ステップ 7 [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで、即時転送を利用する各デバイスに、Immediate Divert (iDivert) ソフトキーを追加した Standard User または Standard Feature ソフトキー テンプレートを割り当てます。 ヒント 多数のユーザが [即転送] ソフトキーを使用できるようにするには、ソフトキー テンプレートに Immediate Divert (iDivert) ソフトキーを設定し、デバイス プールにそのソフトキー テンプレートを割り当て、即時転送を必要とするすべてのユーザにそのデバイス プールを割り当てます。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」
ステップ 8 即時転送機能が使用可能であることをユーザに通知します。	ユーザが Cisco Unified IP Phone で即時転送にアクセスする方法については、電話機のマニュアルを参照してください。

即時転送の概要

即時転送（[即転送] ソフトキー）機能を使用すると、ボイスメール システムへコールを即時に転送できます。コールが転送されると、その回線で新規コールを送受信できるようになります。

即時転送機能は CTI アプリケーションでは使用できませんが、即時転送と同じ機能を実行する CTI 転送操作が存在します。アプリケーション開発者は、CTI 転送操作を使用して、即時転送を実行できます。

即時転送機能にアクセスするには、[即転送] ソフトキーを使用します。このソフトキーは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウを使用して設定します。ソフトキー テンプレートは、Cisco Unified Communications Manager システム内の電話機に割り当てられます。

Cisco Unified Communications Manager の補足サービスである即時転送は、システム内で広く使用できます。即時転送を行う [即転送] ソフトキーは、ユーザがログインしなくても電話機で使用できます。

提供、保留、あるいはアクティブ状態の着信コールを転送できます。アクティブまたは保留状態の発信コールを転送できます。転送される側には、コールの転送先のボイスメール システムのグリーティングが再生されます。

従来の即時転送では、即時転送機能を呼び出した側のボイスメールボックスにコールを転送できます。拡張された即時転送では、即時転送機能を呼び出した側のボイスメールボックスまたは元の着信側のボイスメールボックスにコールを転送できます。

拡張された即時転送モードが着信コールについてアクティブになっている場合、コールを受けたユーザは、即時転送を呼び出して、自分のボイスメールボックスまたは元の着信側のボイスメールボックスにコールを転送できます。機能を呼び出したユーザが [即転送] ソフトキーを押すと、呼び出し側ユーザの電話画面に元の着信側と呼び出し側ユーザの両方が表示されます。ユーザがこの 2 つの名前のいずれかを選択すると、コールは選択された側のボイスメールボックスに転送されます。



(注)

着信コールを転送するためにユーザが即時転送機能を呼び出したときに、元の着信側を選択することが可能なのは、クラスタ全体のサービス パラメータ `Use Legacy Immediate Divert` が [False] に設定されている場合だけです。[「即時転送用のサービス パラメータの設定」\(P.27-12\)](#) を参照してください。

即時転送のシステム要件

即時転送が機能するには、次のソフトウェア コンポーネントが必要です。

- Cisco Unified Communications Manager 6.0 以降
- 表 27-2 に、Divert または iDivert ソフトキー（電話機上ではいずれも [即転送] と表示）を使用する電話機を示します。

表 27-2 Divert または iDivert ソフトキーを使用する Cisco Unified IP Phone

Cisco Unified IP Phone モデル	Divert ソフトキー	iDivert ソフトキー	ソフトキー テンプレートでの設定内容
Cisco Unified IP Phone 6900 シリーズ (6901 および 6911 を除く)	X		iDivert
Cisco Unified IP Phone 7900 シリーズ		X	iDivert
Cisco Unified IP Phone 8900 シリーズ	X		デフォルトで設定
Cisco Unified IP Phone 9900 シリーズ	X		デフォルトで設定

Cisco Unified IP Phone および即時転送機能の詳細については、次のサイトで電話機のユーザー マニュアルを参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps10326/products_user_guide_list.html

http://www.cisco.com/en/US/products/hw/phones/ps379/products_user_guide_list.html

http://www.cisco.com/en/US/products/ps10451/products_user_guide_list.html

http://www.cisco.com/en/US/products/ps10453/products_user_guide_list.html

次のボイスメール システムは即時転送をサポートしています。

- Unity などの Skinny プロトコルを使用するボイスメール システム
- Octel などの SMDI を使用するボイスメール システム

即時転送のコール処理要件

次の項では、即時転送のコール処理要件について説明します。

- 「ソフトキー要件」(P.27-4)
- 「着信コールの要件」(P.27-5)
- 「発信コールの要件」(P.27-6)

ソフトキー要件

Immediate Divert (iDivert) ソフトキーはソフトキー テンプレートで自動的に設定されないので、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウを使用して、使用可能な任意のソフトキー テンプレートで Immediate Divert (iDivert) ソフトキーを設定します。Immediate Divert (iDivert) ソフトキーは、次のコール状態で設定できます。

- 接続時
- 保留
- 呼び出し



(注) ソフトキー テンプレートの呼び出し状態は、電話機のコール状態の提供状態です。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを使用して、Immediate Divert (iDivert) ソフトキーを含むソフトキー テンプレートを電話機に割り当てます。

ソフトキー テンプレートの設定については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ソフトキー テンプレートの設定」を参照してください。電話機へのソフトキー テンプレートの割り当てについては、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」を参照してください。

着信コールの要件

次のリストに、即時転送がサポートするコール転送チェーン内の着信側のタイプを示します。

- ユーザ A がユーザ B に電話をかける。
- ユーザ B がユーザ C に転送する。
- ユーザ C がユーザ D に転送する。

ユーザ B は元々の着信側です。ユーザ C は最後の転送側です。ユーザ D は最後の着信側です。

即時転送は、次の着信コール状態をサポートします。

- 提供
- 保留
- アクティブ

クラスタ全体のサービス パラメータ Use Legacy Immediate Divert が [True] に設定されている場合、着信側が [即転送] ソフトキーを押すと、即時転送によって、この着信側に関連付けられているボイスメール メールボックスに着信コールが転送されます。着信側のボイスメール メールボックスは、着信側の電話番号に割り当てられているボイスメール プロファイルによって管理できます。

クラスタ全体のサービス パラメータ Use Legacy Immediate Divert が [False] に設定されている場合に、着信側が [即転送] ソフトキーを押すと、即時転送によって、着信側は宛先のボイスメールボックスを選択できます。転送済みのコールがある場合は、着信側の画面に表示されません（「インタラクション」(P.27-9) を参照）。着信側は、元の着信側のボイスメール メールボックスまたは着信側に関連付けられているボイスメール メールボックスにコールを転送するか、[即転送] メニューにある転送をキャンセルできます。元の着信側または着信側のボイスメール メールボックスは、関連付けられた電話番号に割り当てられているボイスメール プロファイルによって管理できます。

ボイスメールについては、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco ボイスメールパイロットの設定」および「ボイスメール プロファイルの設定」と、『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「Cisco Unified Communications Manager へのボイスメールの接続性」を参照してください。

発信コールの要件

即時転送は、次の発信コール状態をサポートします。

- 保留
- アクティブ

発信側が [即転送] ソフトキーを押すと、即時転送によって、この発信側に関連付けられているボイスメール メールボックスに発信コールが転送されます。発信側のボイスメール メールボックスは、発信側の電話番号に割り当てられているボイスメール プロファイルを使用して管理できます。

ボイスメールについては、『[Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド](#)』の「[Cisco ボイスメールパイロットの設定](#)」および「[ボイスメールプロファイルの設定](#)」と、『[Cisco Unified Communications Manager システムガイド](#)』の「[Cisco Unified Communications Manager へのボイスメールの接続性](#)」を参照してください。

即時転送の電話機表示メッセージ

即時転送によって IP Phone に次のメッセージが表示され、即時転送アクションのステータスが示されます。

- 「キーがアクティブではありません」: [即転送] を押したユーザのボイスメール プロファイルにボイスメールパイロットがありません。
- 「一時エラー発生」: ボイスメールシステムが機能しないか、ネットワークの問題が存在します。
- 「話中」: このメッセージは、ボイスメールシステムが通話中であることを示します。

即時転送の使用

次のシナリオでは、即時転送機能の使用例を示します。シナリオ 1～6 は、クラスタ全体のサービスパラメータ Use Legacy Immediate Divert が [True] に設定されていることを前提にしています。シナリオ 7～8 は、クラスタ全体のサービスパラメータ Use Legacy Immediate Divert が [False] に設定されていることを前提にしています。シナリオ 9 はクラスタ全体のサービスパラメータの Use Legacy Immediate Divert と Auto Call Pickup Enabled が [False] に設定されていることを前提にしています。すべてのシナリオで iDivert ソフトキーについて説明しますが、次に挙げた事例では Divert ソフトキーも適用可能です (表 27-2 を参照)。

Use Legacy Immediate Divert サービスパラメータが [True] に設定されている場合の即時転送シナリオ

シナリオ 1: 着信側が [即転送] ソフトキーを押した場合

1. ユーザ A がマネージャ A に電話をかけます。
2. マネージャ A が [即転送] ソフトキーを押します (提供状態)。
3. 即時転送によって、マネージャ A のボイスメール メールボックスにコールが転送されます。
4. ユーザ A にマネージャ A のボイスメール メールボックス グリーティングが再生されます。

シナリオ 2 : 元の着信側のボイスメール プロファイルにボイスメール パイロットがない場合

1. ユーザ A がユーザ B に電話をかけます。
2. コールがアシスタント B の個人回線に転送されます。
3. アシスタント B が [即転送] ソフトキーを押します (提供状態) 。
4. 即時転送によって、アシスタント B のボイスメール メールボックスにコールが転送されます。ユーザ B ではボイスメール パイロット番号が設定されていませんが、アシスタント B では設定されています。
5. ユーザ A にアシスタント B のボイスメール メールボックス グリーティングが再生されます。

シナリオ 3 : マネージャ A がマネージャ B へコールを転送する場合

1. ユーザ A がマネージャ A に電話をかけます。
2. マネージャ A の回線はマネージャ B へ転送されます。
3. マネージャ B が [即転送] ソフトキーを押します (提供状態) 。
4. 即時転送によって、マネージャ B のボイスメール メールボックスにコールが転送されます。
5. ユーザ A にマネージャ B のボイスメール メールボックス グリーティングが再生されます。

シナリオ 4 : ボイスメール プロファイルで定義されたボイスメール ポートが通話中の場合

1. ユーザ A がユーザ B に電話をかけます。
2. ユーザ B が [即転送] ソフトキーを押します (提供状態) 。
3. ボイスメール ポートが通話中なので、即時転送によってボイスメール メールボックスへコールを転送することができません。
4. ユーザ B の IP Phone に「話中」というメッセージが表示されます。
5. 元のコールは提供状態のままです。

シナリオ 5 : 発信側がハント パイロット番号を使用するコール センターに電話をかける場合

1. ユーザ A がハント リスト A に電話をかけます。
2. ハント リスト A のメンバがグレー表示の [即転送] ソフトキーを押します (提供状態) 。
3. ハント リスト A にはボイスメール プロファイルがないので、即時転送でボイスメール メールボックスへコールを転送することはできません。
4. ハント リスト A のメンバの IP Phone に「キーがアクティブではありません」というメッセージが表示されます。

シナリオ 6 : 発信側 B が別の Cisco Unified Communications Manager クラスタ上のユーザ C へコールを転送する場合

1. ユーザ A がユーザ B に電話をかけます。
2. ユーザ B が別の Cisco Unified Communications Manager クラスタ上のユーザ C へコールを転送します。
3. ユーザ C が着信コールに応答します。
4. ユーザ C が [即転送] ソフトキーを押します。
5. ユーザ A にユーザ C のボイスメール メールボックス グリーティングが再生されます。

Use Legacy Immediate Divert サービス パラメータが [False] に設定されている場合の即時転送シナリオ

シナリオ 7: 発信側 A がユーザ B に電話をかけ、ユーザ B がコールをユーザ C に転送する場合

1. ユーザ A がユーザ B に電話をかけます。
2. ユーザ B の電話機からユーザ C にコールが転送されます。
3. ユーザ C に着信コールが表示され、[即転送] ソフトキーを押します。
4. ユーザ C が [即転送] ソフトキーを押します。
5. ユーザ C の電話機に、転送先として、ユーザ B のボイスメール メールボックスまたはユーザ C のボイスメール メールボックスを選択するための画面が表示されます。
6. ユーザ C がユーザ B のボイスメール メールボックスを選択します。
7. ユーザ A にユーザ B のボイスメール メールボックス グリーティングが再生されます。

シナリオ 8: 発信側がハントパイロット番号を使用するコールセンターに電話をかける場合

1. ユーザ A がハントリスト A に電話をかけます。
2. ハントリスト A のメンバが [即転送] ソフトキーを押します (提供状態)。
3. 即時転送によって、即時転送機能呼び出したハントリスト A のメンバのボイスメール メールボックスにコールが転送されます。
4. ユーザ A にハントリスト A のメンバのボイスメール メールボックス グリーティングが再生されます。

シナリオ 9: クラスタ全体のサービスパラメータ **Auto Call Pickup Enabled** が [False] に設定されていて、ユーザがコールピックアップグループに属している場合

1. ユーザ B、ユーザ C、ユーザ D が同じコールピックアップグループに属しています。
2. ユーザ A がユーザ B に電話をかけます。
3. ユーザ B の IP Phone の呼び出し音が鳴りますが、ユーザ B はコールに応答しません。
4. ユーザ C がコールピックアップを使用してコールに応答します。
5. ユーザ C が、アラート、接続中、または保留中のいずれかの状態で [即転送] ソフトキーを押すと、ユーザ C の IP Phone に選択肢が表示されます。ユーザ C は、即時転送で元の着信側のボイスメール メールボックス (ユーザ B) にコールを転送する、または即時転送で最後の着信側のボイスメール メールボックス (ユーザ C) にコールを転送する、という 2 つのオプションのいずれかを選択できます。



(注)

クラスタ全体のサービスパラメータ Use Legacy Immediate Divert が [False] に設定され、クラスタ全体のサービスパラメータ Auto Call Pickup Enabled が [True] に設定されている場合、コールピックアップグループのユーザがコールピックアップを使用してコールに応答すると、[即転送] ソフトキーを押しても、IP Phone には選択肢が何も表示されません。

インタラクションおよび制限事項

次の項では、即時転送におけるインタラクションおよび制限事項について説明します。

- 「[インタラクション](#)」 (P.27-9)
- 「[制限事項](#)」 (P.27-10)

インタラクション

次の各項では、即時転送が Cisco Unified Communications Manager アプリケーションおよびコール処理と通信する方法について説明します。

- 「[Multilevel Precedence and Preemption \(MLPP\)](#)」 (P.27-9)
- 「[コールパークのサービスパラメータの設定](#)」 (P.5-11)
- 「[自動転送](#)」 (P.27-9)
- 「[呼詳細レコード \(CDR\)](#)」 (P.27-9)
- 「[会議](#)」 (P.27-9)
- 「[ハントリスト](#)」 (P.27-10)

Multilevel Precedence and Preemption (MLPP)

即時転送と MLPP の間では、次の通信が行われます。

- 即時転送は、コールのタイプ（たとえば、優先コール）に関係なく、ボイスメール メールボックスへコールを転送します。
- Alternate Party Diversion（コールの優先順位）がアクティブになっている場合は、Call Forward No Answer（CFNA; 無応答時転送）が非アクティブになります。

自動転送

[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで無応答時転送を設定しない場合、自動転送はクラスタ全体の CFNA タイマー サービスパラメータ Forward No Answer Timer を使用します。ユーザが自動転送と同時に [即転送] ソフトキーを押すと、コールはボイスメール メールボックスではなく、割り当てられた自動転送先電話番号に転送されます（タイマーが短すぎたため）。この問題を解決するには、CFNA タイマー サービスパラメータを十分な時間に設定します（たとえば、60 秒）。iDivert 画面が即時転送の呼び出し側に表示されている場合、CFNA タイマーの期限が切れると、コールは次のユーザに転送されます。

呼詳細レコード (CDR)

即時転送は、CDR の「Onbehalf of」フィールドに即時転送コード番号（たとえば、joinOnbehalfOf および lastRedirectRedirectOnBehalfOf）を使用します。

会議

会議参加者が [即転送] ソフトキーを押すと、残りの会議参加者が即時転送の発信者のボイスメール メールボックス グリーティングを受信します。会議のタイプには、アドホック、ミーティング、割り込み、C 割り込み、および参加があります。

ハント リスト

即時転送は、回線グループのメンバである DN に対して次のように機能します。

- [即転送] ソフトキーが有効であることを確認します。
- クラスタ全体のサービス パラメータ Use Legacy Immediate Divert が [True] に設定されている場合、ハント リストパイロット（ハンティング アルゴリズムの一部として）から電話機に直接着信するコールにおいて、[即転送] ソフトキーはグレー表示になります。[False] に設定されている場合は、グレー表示になりません。
- クラスタ全体のサービス パラメータ Use Legacy Immediate Divert が [True] または [False] に設定されている場合、ハント リストパイロット（ハンティング アルゴリズムの一部として）から電話機に直接着信しないコールにおいて、[即転送] ソフトキーはグレー表示になりません（これには、ハント リストパイロットにコールが発信された場合、ハント リストが期限切れになった場合、および DN へのディスポジション転送後にコールが発信され、この DN 自体がハント グループのメンバであった場合が含まれます。これは、ハント リストパイロットを通じてハント グループのメンバに間接的にコールされるケースを表します）。

制限事項

即時転送には、次の制限事項があります。

- 即時転送は、クラスタ全体のサービス パラメータの Use Legacy Immediate Divert および Allow QSIG During iDivert の設定値に応じて、QSIG デバイス（QSIG 対応 H-323 デバイス、MGCP PRI QSIG T1 ゲートウェイ、および MGCP PRI QSIG E1 ゲートウェイ）をサポートします。詳細については、「[即時転送用のサービス パラメータの設定](#)」(P.27-12) を参照してください。QSIG トランク経由で即時転送が許可されている場合は、次のガイドラインに従います。ボイスメール システムと QSIG を統合している場合は、ボイスメールパイロットまたはボイスメール マスクのいずれかまたは両方を含むボイスメール プロファイルでは、[システムのデフォルトボイスメールプロファイルに設定 (Make this the default Voice Mail Profile for the System)] チェックボックスをオフのままにします。デフォルトの [ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)] は、常に [ボイスメールなし (No Voice Mail)] に設定してください。
- Call Forward All (CFA; 不在転送) と Call Forward Busy (CFB; 話中転送) がアクティブになっている場合、システムは即時転送をサポートしません (CFA と CFB は即時転送よりも優先されます)。
- ローカル /SCCP 接続を介してボイスメール システムに到達すると、即時転送はボイスメール ポートが話し中の状態にあることを検出できません (コールは、話し中のボイスメール システムには転送できませんが、元のコールは維持されます。即時転送が呼び出された電話機の画面に「話中」と表示され、コールが転送されなかったことが通知されます)。ボイスメール システムに QSIG トランクまたは SIP トランク経由で到達する場合、即時転送は検出できませんがコールは維持されません。クラスタ全体のサービス パラメータ Allow QSIG During iDivert が [True] に設定されているか、クラスタ全体のサービス パラメータ Use Legacy Immediate Divert が [False] に設定されている場合、即時転送は、QSIG トランクや SIP トランク経由で到達可能なボイスメール システムへのアクセスをサポートします。クラスタ全体のサービス パラメータ Allow QSIG During iDivert が [False] に設定されており、クラスタ全体のサービス パラメータ Use Legacy Immediate Divert が [True] に設定されている場合、即時転送は、QSIG トランクや SIP トランクを経由したボイスメール システムへのアクセスをサポートしません。即時転送は通話中のボイスメール ポートへコールを転送できませんが、ボイスメール ポートをルートまたはハント リストのメンバにすることによって、ポートが通話中というシナリオを減らすことができます。

- クラスタ全体のサービス パラメータ **Use Legacy Immediate Divert** が [True] に設定されている場合、ハントリストのメンバは、コールが直接転送であれば、即時転送を呼び出すことができます。回線グループのメンバとして到達した場合は即時転送を呼び出せません。IP Phone にメッセージ「キーがアクティブではありません」が表示されます。
- Cisco Unified Communications Manager がダウンした場合は、Cisco Unified Communications Manager がダウンする前に転送先とボイスメール システムの間にメディア パスが確立されていない限り、ユーザはボイスメールを保持できません。
- システムは、迷惑呼 ID 機能と即時転送機能を同時にサポートしません。
- CTI アプリケーションでは即時転送を使用できません（アプリケーションは VM 転送を使用します）。
- IP Phone で即時転送テキスト表示のタイマーを制御するには、Call Park Display Timer サービス パラメータを使用します。このサービス パラメータが変更されると、即時転送のテキスト表示タイマーも変更されます。
- MLPP の使用の制限事項については、「[Multilevel Precedence and Preemption \(MLPP\)](#) (P.27-9) を参照してください。
- [即転送] ソフトキーが押された場合、無応答時転送のタイムアウトとの関係で競合条件が発生します。たとえば、マネージャが無応答時転送のタイムアウトの直後に [即転送] ソフトキーを押すと、自動転送によって、事前設定された電話番号へコールが転送されます。ただし、マネージャが無応答時転送のタイムアウトの前に [即転送] ソフトキーを押した場合は、即時転送によってマネージャのボイスメール ボックスへコールが転送されます。
- 発信側と着信側は、両方が同時に [即転送] ソフトキーを押すことによって、それぞれのボイスメール メールボックスへコールを転送できます。発信側のボイスメール メールボックスには、着信側の発信グリーティングの一部が含まれます。同様に、着信側のボイスメール メールボックスには、発信側の発信グリーティングの一部が含まれます。
- 会議の参加者が [即転送] ソフトキーを押すと、残りのすべての参加者が、[即転送] を押した参加者の発信グリーティングを受信します。会議のタイプには、ミーティング、アドホック、C 割り込み、および参加があります。
- コールでの最後のアクションが自動ピックアップ、コールの転送、コールパーク、コールパーク復帰、会議、ミーティング会議の場合、または任意のアプリケーションで分割または結合の操作を実行した場合、拡張された即時転送機能では、着信側の電話画面にボイスメール メールボックスの選択肢が表示されません。その代わりに、拡張された即時転送は、着信側に関連付けられているボイスメール メールボックスにコールを即時転送します。
- QSIG トランク経由で即時転送が許可されている場合は、次のガイドラインに従います。ボイスメール システムと QSIG を統合している場合は、ボイスメール パイロットまたはボイスメール マスクのいずれかまたは両方を含むボイスメール プロファイルでは、[システムのデフォルトボイスメール プロファイルに設定 (Make this the default Voice Mail Profile for the System)] チェックボックスをオフのままにします。デフォルトの [ボイスメール プロファイル (Voice Mail Profile)] は、常に [ボイスメールなし (No Voice Mail)] に設定してください。

即時転送のインストールとアクティブ化

システム機能の即時転送は、Cisco Unified Communications Manager ソフトウェアに標準で備わっています。即時転送は、特にインストールする必要はありません。

即時転送の設定

この項の内容は次のとおりです。

- 「[即時転送の設定チェックリスト](#)」(P.27-1)
- 「[即時転送用のサービス パラメータの設定](#)」(P.27-12)



ヒント

即時転送を設定する前に、「[即時転送の設定チェックリスト](#)」(P.27-1)を参照してください。

即時転送用のサービス パラメータの設定

即時転送機能の動作は、各サービス パラメータの設定によって異なります。即時転送機能に影響を与えるサービス パラメータについて、次に説明します。

クラスタ全体のサービス パラメータ Call Park Display Timer

即時転送は、Cisco Unified Communications Manager のクラスタ全体のサービス パラメータ Call Park Display Timer を使用します。このサービス パラメータのデフォルトは 10 秒です。IP Phone で即時転送テキスト表示のタイマーを制御するには、Call Park Display Timer サービス パラメータを使用します。このサービス パラメータが変更されると、即時転送のテキスト表示タイマーも変更されます。このタイマーは、Cisco CallManager サービスと即時転送が設定されたクラスタ内の各サーバに対して設定します。

テキスト表示については、「[即時転送の電話機表示メッセージ](#)」(P.27-6)を参照してください。

クラスタ全体のサービス パラメータ Use Legacy Immediate Divert

即時転送では、クラスタ全体のサービス パラメータ Use Legacy Immediate Divert が [False] に設定されている場合のみ、元の着信側のボイスメールボックスまたは即時転送機能呼び出したユーザのボイスメールボックスのいずれかに着信コールを転送できます。Use Legacy Immediate Divert サービス パラメータが [True] に設定されている場合、即時転送機能呼び出したユーザは、着信コールを自身のボイスメールボックスにのみ転送できます。

クラスタ全体のサービス パラメータ Use Legacy Immediate Divert を [False] に設定すると、QSIG 経由で到達するボイスメール システムにアクセスできます。

クラスタ全体のサービス パラメータ Allow QSIG During iDivert

クラスタ全体のサービス パラメータ Allow QSIG During iDivert が [True] に設定されている場合、即時転送は QSIG、SIP、および QSIG 対応 H.323 デバイス経由で到達可能なボイスメール システムにコールを転送します。

Immediate Divert User Response Timer サービス パラメータ

Immediate Divert User Response Timer サービス パラメータの値によって、コールの転送先を選択するために [即転送] ソフトキーの呼び出し側が使用できる時間が決まります。呼び出し側が宛先を選択しない場合、コールは接続状態のままになります。

関連項目

- 「即時転送の設定チェックリスト」(P.27-1)
- 「即時転送の概要」(P.27-3)
- 「即時転送のシステム要件」(P.27-4)
- 「Use Legacy Immediate Divert サービス パラメータが [False] に設定されている場合の即時転送シナリオ」(P.27-8)
- 「即時転送のインストールとアクティブ化」(P.27-12)
- 「即時転送の設定」(P.27-12)
- 「即時転送用のサービス パラメータの設定」(P.27-12)
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ソフトキーテンプレートの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco ボイスメールパイロットの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ボイスメールプロファイルの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「Cisco Unified Communications Manager へのボイスメールの接続性」

参考資料

- Cisco Unified IP Phone の管理資料 (Cisco Unified Communications Manager 用)
- Cisco Unified IP Phone のユーザ資料

